

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

2016年10月25日
第2号
教育指導課教育課程係

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業研究会

9月28日(水)、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進に向け、仙台市立五橋中学校(岡崎 徹校長先生)を会場に授業研究会が行われました。丹野 美紀教諭が「刺激と反応」を題材に2学年理科の授業を行いました。「対話的な学び」に焦点を当て、グループによる学習活動を中心に進めました。生徒たちは、感覚器官の仕組みや働きを分かりやすく説明するために、思考ツールを活用し、互いの考えや意見を発表し合い、グループとしての考えをまとめていきました。当日は、市教育センターの菅原 徹 指導主事が指導助言者として授業者へ次のことについて指導・助言しました。



- ①生徒に話し合いの素地ができており、どのグループも意欲的に活動していた。思考ツールの活用が、生徒同士の話し合いをスムーズにしており、効果的だった。
- ②学習内容の深化を図るために、思考ツールの活用場面では、時間を掛けて生徒同士が意見や考えを交換するようにした方がよい。



授業研究会には、五橋中学校の先生方のほか、近隣小学校の先生方も参加され、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりを推進について、じっくり考える充実した授業研究会になりました。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり研修会

10月3日(月)、仙台市立八木山中学校(境野 百合子校長先生)において、「主体的・対話的で深い学び」を実現に向けた授業づくり研修会が行われました。当日は、東京学芸大学の森本 康彦准教授が講師として来校され、「アクティブ・ラーニングの授業デザイン」と題して講話をいただきました。森本先生から講演の冒頭に、「膨大な情報量を有する『ポケモンGO』について、子どもたちが図鑑を調べながらポケモンの知識を得ていく姿」を例に挙げ、「学び」には主体性が大きく関わっていることや授業づくりでのポイントが話されました。

森本先生の講話の様子



- ①学習の主役は子どもであること。常に子どもが主体的に取り組めるような授業を工夫すること。
- ②知識は与えられるものではなく、自ら構成するものであり、活用することによって定着する。
- ③学んだことを個人、ピア(グループ)、全体で振り返ることが重要である。振り返ることによって、学びを深め、次の学びにつながる。

最後に、八木山中学校と近隣の小学校から講演に参加した約60名の先生方に、森本先生から「小・中学校においては、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業の素地がある。各校でいろいろな取組を試し、先生方全員で議論を共有してほしい」と激励の言葉をいただきました。